

# 令和4年度 業績評価結果の概要について

令和5年7月31日  
全学業績評価委員会

## ○実施の目的

琉球大学では、以下の3点を通じて教員の教育研究意欲を一層向上させることを目的として、教員の業績評価制度を令和2年度から導入している。

- ・ 目標設定を通じて、大学として期待する成果や行動についての共通理解に資する。
- ・ 評価結果のフィードバック等により、人材育成に資する。
- ・ 学部長等と個々の教員の円滑なコミュニケーションの向上に資する。

## ○実施概要

令和4年度業績評価については、以下のとおり実施した。

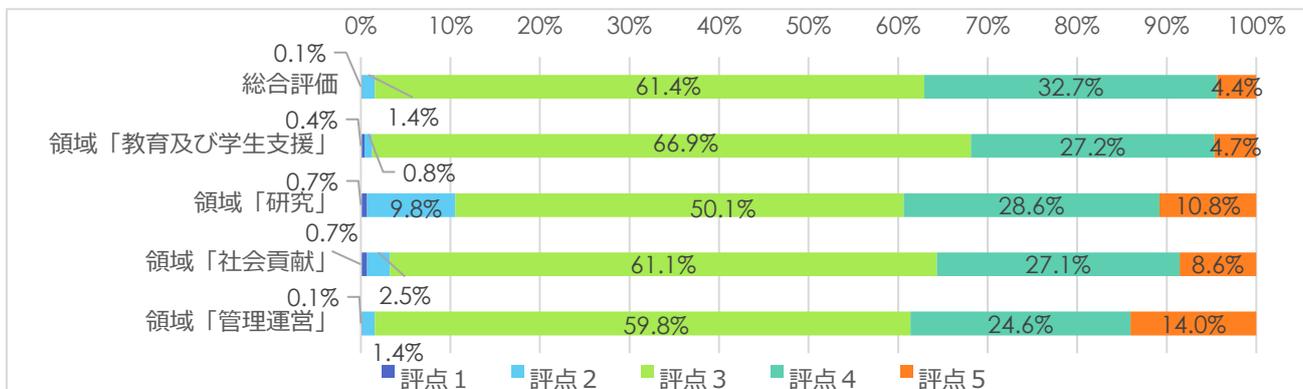
- ・ 評価期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日
  - ・ 評価領域：「教育及び学生支援」「研究」「社会貢献」「管理運営」の4領域の業績を対象に評価。
- ※医学部、医学研究科、病院及びグローバル教育支援機構については、上記に加え「診療」の評価領域を設定している。

- ・ 評価対象部局：人文社会学部、国際地域創造学部、教育学部、教育学研究科、教職センター、理学部、工学部、医学部、医学研究科、病院、農学部、法務研究科、熱帯生物圏研究センター、研究推進機構、グローバル教育支援機構、地域連携推進機構、情報基盤統括センター、大学評価IRマネジメントセンター

- ・ 評価方法：被評価者は年度当初に目標設定、年度末に各評価領域の下に設定された評価項目ごとに5段階の自己評価を行ったうえで期首に設定したウェイトで加重平均し、各領域および総合評価の評点を最大5点で算出した。また、それを記入した評価調書を学部等業績評価委員会に提出し、学部等業績評価委員会及び全学業績評価委員会にて調書の審査を行った。

## ○評価結果

評価対象教員715名について、評価を実施した。評価結果は以下のとおり。



※グラフでは各領域および総合評価の評点を小数点以下で四捨五入した。

## ○評価結果に対する分析

過年度評価と比較すると、全体的に低い評点（1～2）の割合が減少している。（令和3年度評価と比較すると、低い評価の割合が総合評価は3.1ポイント、領域「教育及び学生支援」は1.1ポイント、領域「研究」は5.4ポイント、領域「社会貢献」は2.3ポイント、領域「管理運営」は1.0ポイント減少している。）制度定着により被評価者が評価を意識して活動するようになったことが要因として考えられるが、一方で評価者による「評価の寛大化」傾向（すべての教員に高い評価を付してしまう傾向）にも留意する必要があるとあり、継続的な評価基準の検討が必要と考えられる。

### 【参考】 評価基準

- 評点5 被評価者の職位等に照らして標準を大きく上回ると考えられる業績
- 評点4 被評価者の職位等に照らして標準を上回ると考えられる業績
- 評点3 被評価者の職位等に照らして標準的と考えられる業績
- 評点2 被評価者の職位等に照らして標準を下回ると考えられる業績
- 評点1 被評価者の職位等に照らして標準を大きく下回ると考えられる業績